

# とらべつ

## 歴史余話

### 第34回 戦後の「新生活運動」

旭川工業高等専門学校名誉教授

平野 友彦

太平洋戦争後の混乱の中、当別町でも生活の安定や向上を目指して、青年団、婦人会、4Hクラブの活動や、農業改善普及事業、生活改善事業、婦人学級などの取り組みが進められてきました。その過程で、これらの活動が一つに結びつくような働きかけが、北海道よりなされました。それが、1953（昭和28）年から始まる新生活運動です。同年6月1日付『広報とらべつ』の巻頭に「北国の生活設計」「おし進めよう 新生活の建設」の見出しがあります。当時、北海道が呼びかけていた「新生活運動」に呼応したものです。

この「新生活運動」とは、片山哲内閣が1947（昭和22）年6月22日に閣議決定した「新日本建設国民運動要領」に基づいて、全国に呼びかけた運動でした。北海道では、1952（昭和27）年度から始まった北海道総合開発第一次五ヶ年計画の一環として取り組まれました。当別町も1953年から新生活運動に参加し、広報誌で町民に「進んだ新生活の建設に、邁進すべく町内、部落が結そくする必要があります」と呼びかけました。同年には生活改善推進委員が設置され、翌年には、新生活実践部落として7部落が指定されています。

しかし、全町民挙げての運動の呼びかけは、戦時下の全体主義的な政策に翻弄された町民には抵抗があったため、運動は慎重に進められました。1954（昭和29）年、町では運動の進め方、取り組むべき重点項目などについて、町内の農業組合、婦人団体、青年団体の代表者等にアンケート

を採りました。その結果を広報誌に載せて、運動に関する情報を知らせるとともに、課題を明らかにし、町民が共有できるようにしています。

こうしたプロセスを踏まえ、町の新生活係を中心に、農業改良相談所、当別保健所、生活改善推進員などと連携し、模範部落の育成、農事組合の生産改良奨励、婦人会の活動の醸成に尽力しました。その結果、1955（昭和30）年、当別町は新生活建設モデル町村に、全道14町村の一つとして指定されました。これは当時の各支庁から一つずつ町村が選ばれるものでした。

町内の農協、青年団、婦人団体などが、戦後の混乱の中でそれぞれ独自に行ってきた活動は、「新生活」という共通の目標を掲げ、いわば手を取り合って進むことで、他の町村のモデルになるほどの成果を挙げたのです。



「新しい時代に生きる女性のあり方」をテーマに、女性たちが討議している様子（昭和34年）。昭和30年代、青年団や女性による活動が活発に行われた。

# 地域密着型の店舗 だからこそできること

やすにし  
**安西 梨央**さん



ここに書ききれないエピソードや写真は  
当別町ホームページ「現代を生きる+」  
でご覧ください。



今回は、第10回全国チェッカーフェスティバルで4位入賞し、現在はスーパーアークス当別店にチェッカーチーフとして勤める安西梨央さんにお話を聞きました。

## 人と関わる仕事がしたい

当別町出身で、当別小・当別中・当別高校を卒業。人と話をすることが好きだったので、人と関わる仕事に就きたいと考えていた時、日頃から家族と利用していたアークスが接客を通じて人と触れ合える場所だと感じたので、アークスグループの株式会社ラルズに入社しました。

入社後は、数ある部門の中で第1希望だったチェッカー部門に配属され、最初はスーパーアークスノース店での勤務となりました。

## 私が大会に

就職前までアルバイトをしたことがなく、接客の経験や知識はゼロ。入社時に商品のスキャンの速さや接客対応、お客様からのイレギュラーな質問に対する受け答えの仕方を競う大会があることを耳にしてはいましたが、レジ操作を

覚えるところから必死だったので、自分には縁がない話だと思っていました。しかし、入社3年目の時にトレーナーから大会に出場しないかというお話をいただきました。当初は、人前で発表するなどの経験がほとんどなく、戸惑いはありましたが、今後のためになると思い、会社からの支援やトレーナーからのサポートを受けながら練習に取り組み、大会に出場しました。

## 全国大会の舞台へ

大会の2カ月前から日々の業務の合間や、社内研修などで練習を重ねて全道大会に臨み、優勝。

全国大会が行われる前に、開催地である東京で合同練習をしたのですが、道外出場者の大会にかけ熱意が伝わってきたのと、北海道で1位を獲ったのなら全国でも良い結果を残せるだろうという周りからのプレッシャーにも負けいせず、リラックスした気持ちで大会に臨み、全国で4位という結果を残すことができました。

大会では緊張と楽しさが半々。もともと緊張しやすいこともあり、

人前で披露するのが不安でしたが、初出場の大会で4位となったことで自分に自信ができました。

## お客様に寄り添って

当別店には約1年前、レジの責任者であるチェッカーチーフへと昇格したのと同時に配属となりました。当別店に来るお客様はご高齢の方が多いからなのか、優しいお客様ばかりです。また、地域密着型の店舗なので、親しみやすくフランクな接客が求められていると感じています。

現在は、マスクを着用していることから口元が見えないため、印象が大きく変わってしまいます。その中で、目元だけでも良い印象をお客様に与えられるように意識しています。

チェッカーというお仕事は、お客様がお買い物した最後にお迎えと、お送りをする大切な場所です。最後まで気持ちよくお買い物をしていただけるよう、これからもお客様に寄り添った接客を心掛け、当別店にまた来たいと思っていただけるような接客を頑張りたいと思います。

info.

- ・学校教育課（役場内・☎ 23 - 2689）
- ・社会教育課（役場内・☎ 22 - 3834）
- ・子ども未来課（ゆとろ内・☎ 23 - 3024）

## 令和6年度 保育施設入所受付【一次募集】は11/30まで！

令和6年4月1日から保育施設の利用を希望される方の一次募集を開始します。11月末までに申込みがあった方で利用調整を行い、翌年1月末までに結果をお知らせします。期間内に申込みがない方や必要書類に不備がある方は、二次募集（12月1日開始）以降での受付となりますので、ご注意ください。

▼一次募集期間 11月1日（水）～11月30日（木）

▼申込先 各保育施設または子ども未来課子ども係

▼必要書類

①教育・保育給付認定申請書兼保育所等入所申込書

②保護者（父・母）の就労証明書等

※取得に時間がかかる場合がありますので、お早めにご用意ください。

③保護者（父・母）の令和5年度市町村民税額が確認できるもの（町に課税情報がない方のみ）

※令和5年1月1日に住民登録のあった市町村から交付される課税証明書の提出が必要です。保護者分の個人番号確認書類（個人番号カード等）と身元確認書類（個人番号カード・運転免許証等）の提出があった場合は、課税証明書の提出を省略できます。

▼問合せ・詳細

・子ども未来課子ども係（ゆとろ内・☎ 23 - 3024）

・認定こども園おとぎのくに（☎ 26 - 2353）

・認定こども園当別夢の国幼稚園（☎ 23 - 2381）

※令和5年度途中で利用希望の予定がある方は各保育施設にお知らせください。

### 《保育施設について》

施設名（住所）	入所年齢	特別保育
認定こども園 おとぎのくに（太美町）	生後57日目以降	延長、障がい児、一時預かり（一般型・幼稚園型）
認定こども園 当別夢の国幼稚園（北栄町）	生後57日目以降	延長、障がい児、一時預かり（幼稚園型）

▼保育時間

・7時30分～18時30分（保育標準時間）

・8時30分～16時30分（保育短時間）

▼休所日 日曜・祝日、12月29日～翌年1月3日

▼特別保育 別途申込みが必要ですが、通常保育以外に次の保育を実施しています。

・延長保育…保育時間を超えて、19時30分まで別料金で実施。

・障がい児保育…集団保育や毎日の通所が可能な3歳以上の子どもを対象に実施。

・一時預かり…保護者のパート就労や疾病等により家庭で保育ができない1歳6カ月以上の子どもが対象。  
※幼稚園部分では教育時間終了後から在園児・2歳児を対象とした一時預かりを実施。

### 巡回児童相談を行います

18歳未満のお子さんの発達や療育手帳の判定に関する相談などをお受けします。定員は2名程度です。

▼日程 令和6年1月16日（火）

ゆとろ

▼相談員 北海道中央児童相談所 児童福祉司・心理判定員

▼申込期限 10月25日（水）

▼申込み・問合せ 子ども未来課 子育てサポート係（ゆとろ内・☎ 25 - 2658）

### 「10月は里親月間」支援を必要としています

「里親」は、さまざまな事情により家庭で暮らせなくなった子どもたちを、自分の家庭に迎え入れて育てます。里親が迎え入れる子どもたちは、年齢や期間などさまざまですが、里親の仕事や家庭の事情を勘案して、児童相談所が養育をお願いします。里親として委託された場合は、医療費や教育費などが必要に応じて支給されます。

里親に興味を持たれた方、希望される方は問合せください。

▼問合せ 北海道中央児童相談所

（札幌市中央区円山西町2丁目1-1/木村☎ 011 - 631 - 0301）

### 当別町図書館企画展 第36弾

秋の読書週間 part1  
本館・分館交換本

大人気の交換本の展示会！両図書館へなかなか行くことができない方へ、本館に分館の本、分館に本館の本を展示して、貸出しています。

▼問合せ 当別町図書館（☎ 23 - 0573）

## 子育て支援センター からのお知らせ

事前申込みが必要な講座もありますので、下記 QR コードを確認いただくか問合せください。

### 【あそびのひろば（当別地区）】

音楽会（多世代交流）11月1日（水）10時30分～、ゆとろ  
※一般の方も参加できます。

### 【おとぎキッズ（太美地区）】

ぱくぱく教室、当別高校生交流（多世代交流）

▼開設時間 平日9時～14時  
※水分補給は可能ですが食事はできません。

▼問合せ【あそびのひろば】子ども未来課子育てサポート係（ゆとろ内・☎25-2658）、【おとぎキッズ】認定こども園おとぎのくに（☎26-2353）



当別町 HP



おとぎのくに HP

## 新着図書

### 当別町図書館【一般書】

- ・「風よ僕らの前髪を」 弥生 小夜子
- ・「あんの信じるもの - お勝手のあん」 柴田 よしき

### 西当別分館【児童書】

- ・「まんげつから3ばんめのよる」 あかり
- ・「はけたよずぼんぼん」 minchi

▼問合せ 当別町図書館（☎23-0573）

## 学校給食で子どもたちを笑顔に 食育推進事業「とべっこランチ」

「とべっこランチ」は毎月1回、通常の食材とは別に、町や姉妹都市の食材、旬の食材を使用したおかずの提供のほか、普段の給食では出せないデザートやフルーツなどを出す特別な給食です。

学校給食予定献立表の中で、とべのすけがいる日が「とべっこランチ」の日です。

給食の献立は当別町 HP から見るができます。



←目印はこちら



当別町 HP

### 9月22日（金）



### メニュー

- 鯖菜めし
- 呉汁
- 豚肉の生姜焼き
- かぼちゃのそぼろに  
はちみつレモンゼリー

※当別町産食材を使用している料理には が付いています。



呉汁



豚肉の生姜焼き



かぼちゃのそぼろに

### とべっこランチを食べた 後藤町長に話を聞きました

町産の食材に深い味わいと愛情を感じました。とても美味しかったです。子どもたちには、当別町にこんなにもおいしい食材があるんだということを知ってもらいたいのと、この給食が当別町の素晴らしさを感じる一つのきっかけになればと思います。食事を通じて、自分たちの町をもっと好きになって、大切にしてほしいですね。



# KUMON

ペン習字
かきかた

筆ペン
毛筆

小さなお子さまから大人の方まで学べます  
いつからでも始められます

## 11月の無料体験受付中！

3回お試しいただけます

**日時** 11月11日±18日±25日±  
10:00~16:30

**場所** 西当別コミュニティーセンター

**公文書写**

太美教室 神代(じんだい)

090-7051-7315

お気軽にお問い合わせください

### 後期の成績を決めるのは10月にする復習です！

当教室は楽しさと自立学習を両立する、メリハリのある教室です！

11月にあるテストに向けての準備は11月からでは間に合わない！？

サボローに負けず、10月から一緒に頑張りましょう！

※無料相談もございます。お気軽にお問い合わせください。

**明光義塾**

サボローに注意！

**当別教室**

詳しくは教室まで！→担当:平山 0133-23-2228